PRESS RELEASE

報道関係者各位

2026 年 11 月 16 日

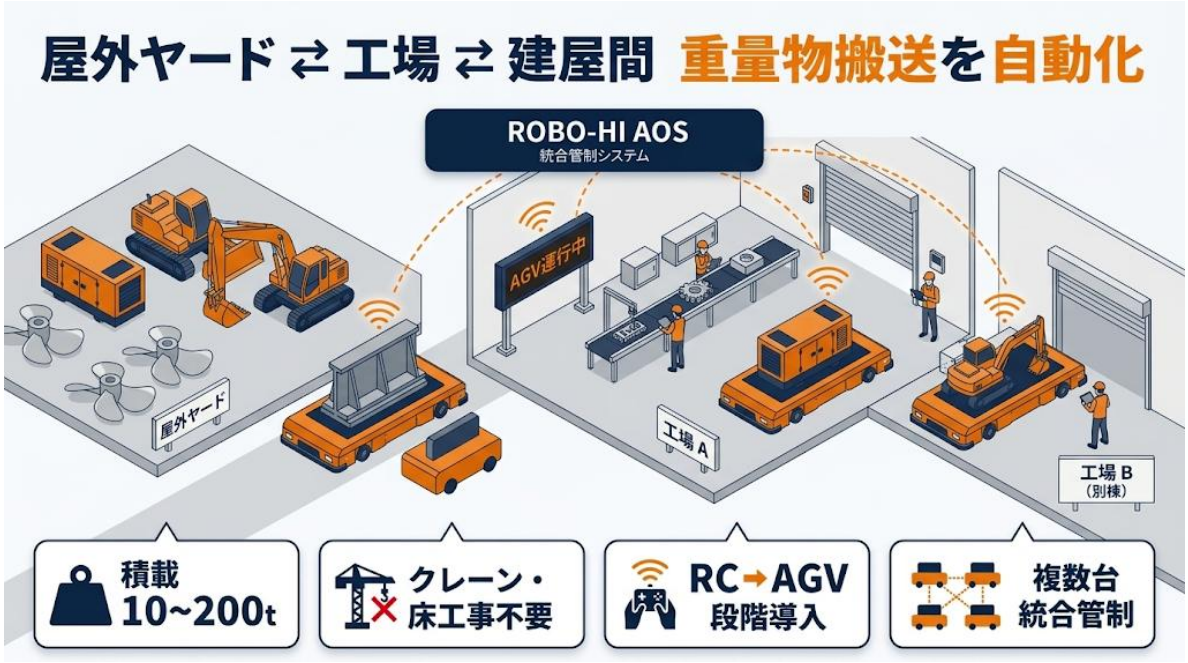
ROBO-HI 株式会社

新製品リリース

屋外ヤード⇄工場⇄建屋間の重量物搬送を、クレーンと床工事不要 自動化・重量物搬送ソリューションを受注開始

～RoboCar RC/AGV と ROBO-HI AOS を組み合わせた DX 推進～

ROBO-HI 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：谷口 恒、以下 ROBO-HI）は、発電機、建機・重機、鉄鋼部品、大型プロペラなどの重量物を、屋外の保管ヤードと工場の間、工場内の工程間、そして建屋間で運ぶ「重量物搬送ソリューション」の提供を開始します。従来クレーンやトレーラー、床工事を伴うコンベアで行っていた搬送を、積載 10～200t の「RoboCar®」シリーズのリモコン車（RC）と自律走行車（AGV）に置き換え、統合管制プラットフォーム「ROBO-HI® AOS」で複数台の車両・作業員・外部車両と協調させます。



■ RoboCar AGV/RC 10 - 200T Web ページ：https://www.robo-hi.jp/robocar/robocar-agv

■ 従来方式との比較

重量物の工場は「吊って、積んで、また吊る」

重量物を扱う工場では、屋外の保管場所と工場の間を製品や部材が日常的に行き来します。出荷前の点検・整備、上流から下流への工程送り、別棟への移動のたびに、クレーンでの吊り替えやトレーラーへの積み替えが発生しています。

- クレーン作業には有資格のオペレーターや合図者が必要で、人手不足のなか要員の確保が難しくなっています。
- 床に埋め込むコンベアやレール式台車は大掛かりな土木工事を伴い、完成後のレイアウト変更にも弱いという課題があります。
- 工場の新設や統合を機に搬送方式を見直したいというニーズが、重工業を中心に高まっています。

■ 3 つの搬送シーンを、1 つのソリューションで

搬送シーン	従来の方法	RoboCar での置き換え
① 屋外ヤード⇄工場	保管場所の製品をクレーンで吊り、トレーラーやフォークリフトで工場へ運ぶ	屋外クレーンで積載した RoboCar が、建屋内の作業位置まで一気通貫で搬送
② 工場内の工程間	天井クレーンでの吊り替え、床埋込コンベアでの工程送り	極低速の連続移動や工程完了に合わせた間欠移動で、コンベアレスのライン化を実現
③ 建屋間	トレーラー、クローラークレーン、軌道工事を伴うレール式台車	構内道路を RoboCar が走行し、旧建屋と新建屋、別棟の間をつなぐ

■ 想定される用途

建機・発電機のレンタル／整備	大型発電機、建機	屋外保管ヤード → 整備工場 → 検査 → 出荷（①②）
造船・舶用機器	大型プロペラ、舶用部品	上流 → 下流工程、屋外保管場所への搬出、建屋間（①②③）
建機・重機メーカー	車体、大型ユニット	組立の工程間、完成品ヤードへの搬出（①②）
鉄鋼・鋳鍛造・アルミ	鋼材、鋳鍛造品、ビレット	溶解・圧延・鍛造などの工程間、建屋間（②③）
航空機・電力設備	大型構造部材、受変電設備	工程間、建屋間（②③）

■ ソリューションの特長

① **クレーン・床工事に頼らない「動く床」**
レール、ピット、床埋込コンベアは不要です。コンクリート舗装などの路面上を走行するため（路面条件は事前に確認します）、工場のレイアウト変更にも柔軟に対応できます。

② **RC から始めて AGV へ ― 同じ車体で段階導入**
まずリモコン操作の RC 仕様で導入して初期投資を抑え、新工場の稼働やレイアウトの確定に合わせて、同じ車体のまま自律走行（AGV）へアップグレードできます。

③ **1 台で搬送とライン送りを兼用。台数を増やして分担も**
1 台で「重量物の搬送」と「整備・生産ラインの送り」を切り替えて使えるため、少ない台数から投資効果を出せます。物量やライン数に応じて台数を増やし、搬送専用とライン専用に役割を分けることも可能です。

④ **ROBO-HI AOS で、人・設備・外部車両と協調**
ROBO-HI AOS が複数台の配車、ルート、状態監視、搬送履歴を一元管理します。外部のトラックが出入りする構内通路では、構内掲示板に「AGV 運行中」を表示して外部車両に注意を促します。出入口のシャッターや門扉との連動、作業員が工程完了を入力して次の搬送を呼び出す連携（ROBO-HI DANCE）にも対応します。

⑤ **安全と保守**
走行中は音と光で周囲に知らせ、車体と送信機に非常停止を備えます。タイヤ交換などの一次保守はお客様で行えるよう設計し、定期点検は ROBO-HI が担当します。

■ 従来方式との比較

項目	クレーン・トレーラー	床埋込コンベア	RoboCar RC/AGV
初期工事	クレーン設備・走行路の整備	大規模な土木工事	床工事は不要（路面条件の確認のみ）
レイアウト変更	クレーンの稼働範囲に限られる	再工事が必要	ルート設定の変更で対応
屋外⇄屋内	吊り替え・積み替えが発生	対応が難しい	1 台で一気通貫
人員	有資格オペレーター・合図者	保守要員	RC は遠隔操作、AGV は自律走行
拡張性	設備の増設が必要	延長工事が必要	台数を追加し、ROBO-HI AOS で統合管理

■ 提供概要

項目	内容
車両	RoboCar RC（リモコン）／RoboCar AGV（自律走行）
積載	10～200t（搬送物と通路幅に合わせて車体サイズを設計）
走行方式	遠隔操作、自律走行（SLAM など、誘導方式は現場に合わせて選択）
運行管理	ROBO-HI AOS（配車・ルート・状態監視・搬送履歴・設備／表示連動）
連携	ROBO-HI DANCE（作業員とのタスク連携）、構内掲示板、シャッター・門扉
提供形態	車両（初期費用）＋ROBO-HI AOS ライセンス＋定期点検
支援範囲	構想段階の要件定義、レイアウト検討、段階導入計画の策定から支援

新工場の建設や工場統合を計画する重工業・建機・エネルギー関連の企業を中心に、構想段階からの要件定義とレイアウト検討を含めた提案を進めます。

ご相談はこちらから

下記お問い合わせフォームより、貴社のロボット活用・フィジカル AI 導入に関する課題をお気軽にご相談ください。
ROBO-HI 株式会社　営業部　お問い合わせフォーム：https://www.robo-hi.jp/contact/inquiry

※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

【ROBO-HI 株式会社について】

「ロボを社会インフラにする」というビジョンのもと、創業以来培ってきた幅広いロボット技術・遠隔監視/制御技術をもとに、世界中のロボットが最大限の性能を発揮できる自律運用 OS「ROBO-HI® AOS（ロボハイ® エーオーエス）」を空港・産業、街・暮らしへと展開しています。生活を豊かにするライフモビリティ「RakuRo®（ラクロ®）」「DeliRo®（デリロ®）」「PATORO®（パトロ®）」、空港や広い施設で活躍するインダストリアルモビリティ「RoboCar®（ロボカー®）」と、「ROBO-HI® AOS」の連携により、あらゆる現場の省力化・省人化に貢献してまいります。
所在地：東京都中央区晴海 1-8-8 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーW 棟 14F
代表者：代表取締役社長　谷口 恒
HP：https://www.robo-hi.jp/